

技術評価認定書

評価認定対象技術：セル型構造地下貯水槽

雨水貯留浸透技術評価認定制度実施要領（1996年6月1日施行）に基づき審査した結果、上記技術を総合治水対策及び水循環再生等に寄与する技術と認め、下記のとおり評価認定する。

2021年10月20日

公益社団法人雨水貯留浸透技術協会

会



佐藤直良



記

1. 評価認定結果

- (1) 雨水の貯水に関して高い遮水性があり、十分な機能を有していると認められる。
- (2) 内蔵する逆流防止弁を含め、実用上十分な強度、耐久性を有していると認められる。
- (3) 管理ます等を用いることにより、施設の維持管理が容易であると認められる。

2. 評価認定の前提

- (1) 提出された資料には事実に反した記載がないものとする。
- (2) 本認定に使用する材料は、適正な品質管理のもとで製造されたものとする。
- (3) 本認定の施工は、標準施工要領に従い適正な施工管理のもとに行われるものである。
- (4) 本審査は、「プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針（案）【平成30年度改定版】」（公益社団法人雨水貯留浸透技術協会）に定める規定に準拠したものである。

3. 評価認定有効期間

自 2021年10月20日 至 2026年10月19日

4. 申請者

株式会社トーテツ

住所 東京都品川区大崎3丁目6番11号

1. 評価認定の対象技術

評価申請者 株式会社 トーテツ

対象技術 セル型構造地下貯水槽

技術の概要 セル型構造地下貯水槽は、軽量のポリプロピレン系を素材とした貯留材を使用しており、この貯留材を遮水シートで覆い、その外側を発砲ポリスチレン版、さらにこれを遮水シートで覆った二重シート構造により、完全な遮水機能を有した貯水槽である。また、雨水の流入経路は、導水部を経由し、逆流防止弁を介して貯水槽の下部から流入させて、微細な塵埃が入りにくい方式をとっており、貯水槽の管理は、管理ます1箇所で行えるようにしたものである。

2. 評価の経緯

雨水貯留浸透技術評価認定制度実施要領（平成8年6月1日施行）に基づき、株式会社トーテツが開発した技術について評価を行うものである。

3. 評価の範囲

本評価の範囲は、以下のとおりである。

①対象技術の設計方法

②対象技術の施工方法

③対象技術の維持管理方法

ただし、貯水槽の規模は、最大有効貯水量 600m³、貯水槽の深さは 3.0.m までを対象とする。

4. 評価内容

評価にあたり、具体的な評価内容を以下に示す。

① 機能性

発砲ポリスチレン版を挟んだ「二重シート工法」は、貯水槽として十分な遮水機能を有している。また、逆流防止弁と内部遮水シートとの貫通部は、同じ材質で立体加工した継手シートにより、確実な漏水対策をとっている。セル型構造地下貯水槽を構成する各設備の通水能力は、逆流防止弁の流量試験の結果を基に算定しており、集水する雨水の流入量に対してバランスがとれており合理的である。また、貯水槽の有効深さに対する貯水容量の規模も、適正に算定されている。

② 強度と耐久性

逆流防止弁(ABS 樹脂)および吐出管(塩化ビニル管)の耐圧性能は、いずれも実用上十分な強度を有している。この逆流防止弁は、既に数十年にわたり、公共事業等で広く用いられているウィープホール技術で、十分な実績を有しており、その耐久性は証明されている。

また、シート類については、土木分野における数多くの実績や JIS をはじめとする各種の規格・基準によって、それぞれ適切な強度と耐久性を有することが既に証明されている。

③ 維持管理性

管理ますおよび必要に応じて設置する付帯設備としての泥溜ますの、底やフィルターなどに沈積・付着しているゴミや砂泥などを、必要に応じて年に1回程度除去することにより、所定の機能を維持することができる。

5. 留意事項および付言

① セル型構造地下貯水槽の貯留材は、既に雨水貯留浸透技術評価認定制度実施要領（平成8年6月1日施行）に基づいて評価・認定された工法のポリプロピレン系のものを使用する。

② セル型構造地下貯水槽の計画、設計、施工にあたっては、評価編に示す設計方法に基づいた検討、評価を行うこと。